

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DK132／自己と他者の社会学 (Sociology of Self and Others)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	さまざまな自己と他者の関係を検討することを通じて、自己という現象に対する社会的なアプローチを学び、現代の個人とコミュニケーションをめぐる問題の社会的な奥行きについて想像力を広げる。		
担当者名 (Instructor)	小倉 敏彦(OGURA TOSHIHIKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

さまざまな自己と他者の関係を検討することを通じて、自己という現象に対する社会的なアプローチを学び、現代の個人とコミュニケーションをめぐる問題の社会的な奥行きについて想像力を広げる。

Students will learn sociological approaches to the phenomenon of the self through examination of the relationships between varied "selves" and others, and will broaden their imagination concerning the social depth of problems surrounding the contemporary individual and communication.

授業の内容 (Course Contents)

自己に対する社会的アプローチの特徴は、自己の生成・変容を、他者との関係性において分析するところにある。この講義ではその切れ味を理解するために、〈私〉の固有性の証と考えられている「個性」や「主体性」や「内面」が、特定の社会関係のなかで生み出された一種の幻想であることを示していく。現代の自己および自己と他者の関係において起きている問題を根本から考えるには、こうした発想の転換が必要である。ただし、〈私〉をめぐる観念が幻想であると知ったところで、私たちはその幻想から簡単に脱け出せるわけではない。私たちはなぜ〈私〉に固執するのか、なぜ他者とのコミュニケーションに悩むのか、その社会的／実存的な理由についても考える。

The distinctiveness of the sociological approach to the self lies in analyzing the generation and transformation of the self in relation to others. In order to understand its incisiveness, the course will show that "individuality," "subjectivity," and "the inner side," considered evidence of the uniqueness of "I," are types of illusion created within specific social relationships. Such a paradigm shift is necessary for fundamental consideration of issues occurring in the contemporary self and in relationships between the self and others. However, understanding that the notion of "I" is an illusion does not allow us to easily escape from that illusion. The course also considers the sociological/existential reasons for why we adhere to "I" and why we struggle in communication with others.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション 自己／他者のいない世界
2. 関係性のなかの自己 G.H. ミード
3. 関係性のなかの自己(続き) R.D. レイン
4. 〈主体性〉の神話 R. ジラール
5. 〈主体性〉の神話(続き) 作田啓一
6. 〈仮面〉としての自己 E. ゴフマン(1)
7. 〈内面〉と市民社会 E. ゴフマン(2)
8. 〈内面〉と暴力の不可視化 N. エリアス
9. 自己を監視する自己 M. フーコー
10. 〈自律的な個人〉の消滅 D. リースマン
11. 現代社会と再帰的自己 A. ギデンズ
12. 再帰的自己の運命 Z. バウマン
13. サークル化する社会 浅野智彦
14. まとめ 物語と絆

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

リアクションペーパーと最終レポートを書くために、必要に応じて参考文献を読み、授業のなかで考えたことをメモしておくこと。不明なところは積極的に質問すること。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

レポート試験(Report Exam)(70%) / リアクションペーパー1(20%) / リアクションペーパー2(10%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 長谷正人・奥村隆、2009、『コミュニケーションの社会学』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-12392-2)
 2. 奥村隆、2013、『反コミュニケーション』、弘文堂 (ISBN:978-4-335-50135-7)
- その他の参考文献は授業内で紹介する。

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)